

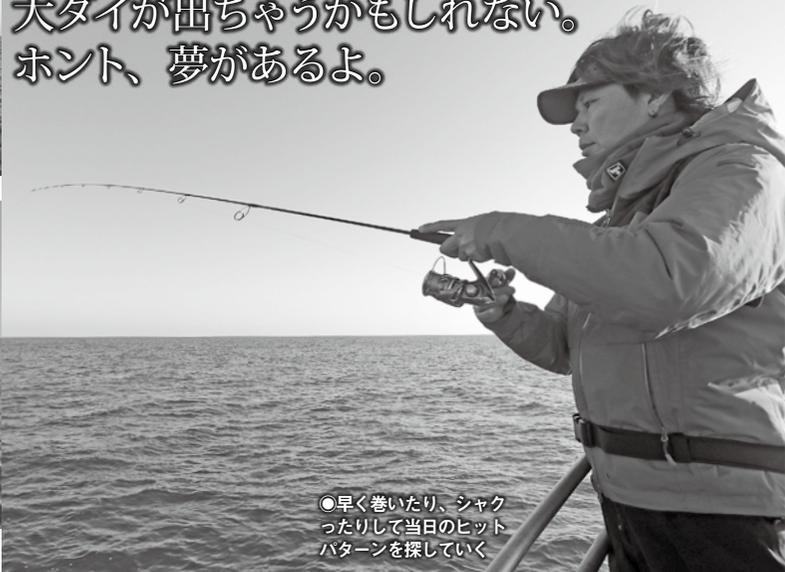
ヒラマサのデカイのがくるかもしれないし、大ダイが出ちゃうかもしれない。ホント、夢があるよ。



▲スピーディーなワンピッチジャークでヒット



▲当日はバンフルズジグTG SLJの40グラムをメインに使った



◎早く巻いたり、シャクったりして当日のヒットパターンを探していく

平気で食ってくるからだ。……12号で14キロのヒラマサも、かなりしびれる。船長も150メートルほどラインを引き出されたそうだ。

## 開始10分で不安がる。今日はダメかも……？

すさまじい……。気軽に楽しいSLJにも、ピリッとした緊張感とドキドキの期待感がある。それが大原のSLJなのだ。

もしもエンジン音だけだ。「……おや？」ヨッシーが弱よわしく言う。「……これは……？」

釣友にして当コーナーの専属モデル(?)、イチロウこと鹿島一郎さんが言う。「……もしや……？」

当コーナーの専属ライター、タカハシゴーが言う。「開始わずか10分で、早くも不安がるツリガチ！スタツフ。」

「SLJ楽しいツスね！」釣友にして当コーナーの若手ホープ、トモキこと板倉友基さんは、不安も何も、初めてのSLJが面白くて仕方ない。

トモキ自身はクロダイのヘチ釣りでのその名をはせるガチ釣り人だが、SLJはビギナー。それでもすんなり「楽しいツス！」と笑えるハードルの低さがSLJの魅力だ。

「何が釣れるか分かんないし、釣ればなんでもうれしいのがSLJ。」おれは今日、マハタを狙ってみようと思うけど、ヒラマサのデカイのがくるかもしれないし、大ダイが出ちゃうかもしれない。ホント、夢があるよ」太東沖、24メートルのボイントで釣りが始まったのは午前6時50分のことだ。静かだ。聞こえてくるのは、ジャークアクションによりウエアが擦れる音と波音、そして頼



▲初挑戦の板倉さんもSLJにハマる

それにしても開始10分で「今日はダメかも……？」と不安がるヨッシー&ツリガチ！スタツフ。彼らの忍耐力に問題があるのは確かだが、「何か釣れるはず」というSLJへの期待値の高さも示している。これがガチジギングだと話はずっと別だ。「一日シャクリ続けて1本でも釣ればサイコー」というぐらいの心持ちで挑むため、開始わずか10分程度でボヤクなどありえない。ちよつとでも釣れないとすぐ不安になるSLJと、一日シャクってアタリすらなくても「今日は今日で楽しかったね」と笑えるMツ気の強いガチジギングと同じ「ジギング」カテゴリーでもキャラクターはかなり異なる。2流し目、32メートルダチ。船中では小さなマダイが上がった。その数分後に、ヨッシーもマダイを釣る。